i-SENS の導入によって大阪産業大学受験者への影響の調査研究

04H021 奥本秀貴

1　はじめに

現在、世界最大級の Social Networking Service(SNS) サイトの MySpace や日本では株式会社ミクシィが運営する SNS サイト mixi を中心に、社会に SNS サイトが普及した。その SNS を利用している Weblog が、利用者から支持されている。そこで、私は今年度より大阪産業大学 (本大学) の情報システム工学科の学生が中心となって、構築・運営している SNS サイトの i-SENS が受験生へどのような影響を与えているのかについて調査し、研究する。

2　考察

i-SNES を利用している受験生を対象として、WEB 上で受験に関するアンケートを取る。そして、実際に i-SENS のメンバーが本大学を受験した人数や、本大学への受験動機への影響 (i-SENS に影響を受けて本大学を受験したのか、又は受験するのか等)、i-SENS についての意見を調査する。その調査を元に今後の i-SENS の運営に役立つ情報の収集や現在の i-SENS の課題・問題点の発見や改良の参考にする。また、過去 6 年間の本大学の受験者数を元にどれくらい効果があるのかについても調査する。それによって、i-SENS が受験生によい影響を与えられるようになることを目的とする。

3　まとめ

アンケートの回答から、i-SENS は受験生にとって有意義なものであるかという問いに対しては全員有意義であると答えている。

その理由としては、受験生が数少ない本大学の学生の生の声を聞く場といういものである。実際に、本大学の学生とマイフレンド登録をしている受験生もいる。そして、自分以外の受験生の意見交換の場としても利用している。例えば、2008 年度受験生の集いと言うコミュニティを作って意見交換を行っている。

現在の i-SENS の問題点はアンケートの i-SENS へのご意見を参考にすると、本大学の学生みんなが使えればいいと言う意見がある。確かにそう考える。より多くの本大学の学生を知ってもらえたほうが、多くの受験生の興味をもってもらう可能性ができる。そこで、サーバの記憶容量 (約 150Mbyte) を考慮し、日記機能のみ (mixi を参考にすると 1 人 100Mbyte の記憶領域を確保している) としたならば、約 1500 人のメンバーまで対応できる。しかし、現在の情報システム工学科の学生のみ約 530 人の利用ならば、対応できるが、本大学の全学生約 1 万人をメンバーとすると、現在の記憶容量では対応できない。HDD を増設するためにお金がいる。

つまり、資金の問題である。これが解決できれば、後は、管理者しだいで、i-SENS が発展可能であると考える。

その問題を解決するには、大学からの資金援助である。i-SENS を大学公式 SNS として運営する、または OSU プロジェクト共育の一環として運営することで大学から資金援助をうけることができると考える。その 2 つに共通するのは、大学が i-SENS の必要性を見い出すことである。それは、メンバー数の増加と知名度の向上が必要である。

i-SENS のメンバーを増やすには、本大学の学生にメンバーになってもらうことが一番有効である。そして、受験生により多くの学生の生の声を聞いてもらうことで、より多くの受験生の興味を引きつけることができる。すると i-SENS を利用する受験生のメンバーも増加する。受験生のメンバーが増えることによって、大学が i-SENS を必要だと認めて、資金援助してもらうことにつながる。

知名度も同様で、メンバーを増やすことで知名度も上昇する。しかし、学生より本大学の先生に知名度があるほうが、i-SENS にとって大学からの資金援助してもらえる環境になりやすいと考える。

以上より、i-SENS が本大学によって資金援助され、今より受験生に影響を与えるものになることを願う。